

広葉樹シーズンは特に資金繰りがしんどいです。

我々雑木業界の原木の仕入れは全て現金取引です。しかも代金前払いなのです。お金を先に払わないと、入札にも参加出来ません。保証金と言う現金を先に払うのです。

まず保証金（50万円）を払います。そして他社より立方当たり100円でも高い値段の入札札を入れます。落札後支払いは250万円購入したら、残り200万円を現金で支払って、初めて原木を動かせる権利が与えられるのです。そして運送屋さんに頼みます。その支払いも現金です。

以上が服部商店のお世話になっている現在の広葉樹原木の流通の仕組みです。

買い付けした原木を持って帰って製材します。歩留まりは大体50%位だと思います。それから早くて一年、長く掛かる材なら3年の乾燥時間が掛かります。

製材サイズは自分が思っていた出来よりも悪い場合『34ミリの板を製材する予定が27ミリの板を挽かざるを得ない』は、それだけで損に【34ミリの価格と27ミリの価格を比較すると後者の価格は前者の80%の価格になります】なりますし、歩留まりも悪くなります。

服部商店は自家工場でナラ・タモ・カツラ・シナ・ホオ・セン・アサダ・カバ等の広葉樹を冬のシーズンに主に製材していますが、売れ行きが全然悪いから、仕入れも全くしなくても一年間はやっていける在庫は持っていますが、仕入れを全くしなかったら一年後には、在庫は歯抜け状態になると思います。服部の良さを自分から言うのは、恥ずかしいですが、服部の材は一見値段が高いように見えるのですが、実際は例えば34ミリの厚みのタモ建具用の板が北海道の製材工場製、若しくは中国の製材品と比較したとき、巾が圧倒的に服部の方が広く、しかも木味が良かったら逆に安いのではと自分では思っています。

木材価格は同じものが二つと無いから値段の比較は我々プロでも難しいのです。プロの材木業者が集まってくる市場で高く買い付けた原木を、最終末端のユーザー様に満足を得る商品に仕上げるのに凄く気を使っています。

服部の強みは材木業者として当たり前の事を当たり前にしているだけです。服部新聞を読んで頂いている方に資金繰りが皆様が思っているより遥かに厳しいことだけでも理解していただければ私は嬉しいです。

左記の写真は名古屋市で開催された広葉樹の銘木市の開催の時の理事長の挨拶です。

理事長のお店の方がロシアに検品に出かけて多数の優良ロシア産広葉樹を出品していただきましたお陰で良い原木を買い付け出来ました。

ところでロシアに買い付けに行くのも凄く寒く凄くハードスケジュールだったと聞いています。

言葉の問題も有り人間の安全にも気を払う必要が有ります。

【仕入れは勿論現金です。L/Cは現金取引です。】



木材は川上に行けば行くほど安くないのが他の資源との最大の違いです。それだけ難しい木材を扱っているのだから本当はもう少し正当な労働が正当な報酬に結びつく業界になって欲しいと思います。介護のヘルパーさん同様、やりがいの有る業界になって欲しいと思います。

広葉樹のシーズンは終了しました。

北海道の広葉樹銘木市は三月にてほぼ終了しました。市は四月以降も有りますが、実質的には終了したと私は思います。今前での広葉樹の供給の傾向は一番旬の12月の市に多数良材が出品されるのですが、本年度は少し様変わりをしていました。10月の市と11月の市にも良質材が出品されていたのです。

広葉樹の市は約10年前北海道には四つの市場が有りました。帯広地区、北見地区、札幌地区、旭川地区とそれぞれ個性の有った市場が有りました。

四市場の特徴は【帯広地区はセンの素晴らしい良材が多数出品されていたことを記憶しています。北見地区はタモの良材とイチイの良材が多数出品されていました。札幌地区はカツラの良材が多数出品されていました。旭川地区はナラの良材が出品されていました。】地区によって良質材の樹種が異なることです。産地の違いが客層の違いに繋がっていたのです。服部商店は帯広地区と札幌地区の市に昔は特に力を入れて買い付けをしていましたが木材資源の枯渇と残された原料を上手く確保する為に全部の市場に買い付けに行かざるを得ないようになりました。

市場の衰退は最初に帯広地区の組合が解散しました。次に北見地区は一昨年より休止状態になり、昨年の12月に開催予定だった札幌地区も休止になりました。そして本年より旭川地区に集約されました。



広葉樹は本来葉が落葉してから伐採します。10月の市に間に合わせるなら1カ月前には伐採をしなくてはなりません。と言う事はまだ葉が紅葉している状態で伐採されているのです。集約された旭川地区の市場は8月を除いて毎月開催されています。年12回開催されています。以上の様な事を総合的に考えた時、私は以下の事を深く感じました。

- 1、良質材はほんの一握りしかない。
- 2、無理して市を開催している。

我々木材業者は市の開催は本来、人間の都合に合わせるのでは無く、自然の恵みのサイクルに合わせる方が長く恩恵を受けられるのではないかと思います。

左記の写真は旭川にて3月6日開催された広葉樹銘木市の展示場です。昨年比30%減の出品数量でした。

北海道に残されている広葉樹資源の量と質ではもはや日本のマーケットの需要は賄えません。外国産材抜きには無理です。北海道に入荷している広葉樹資源の生産国は中国材からロシア材に変わり、そしてアメリカ材、が増え、そしてヨーロッパ材も多く輸入されるようになってきています。

と言う事は純然たる北海道産材つまり外国には無い四種類の広葉樹【カツラ・ホオ・セン・マカバ】は事実上極一部の方たちしか使えない量しか確保出来なくなる事を意味しているのだと考えるのは考えすぎでしょうか。



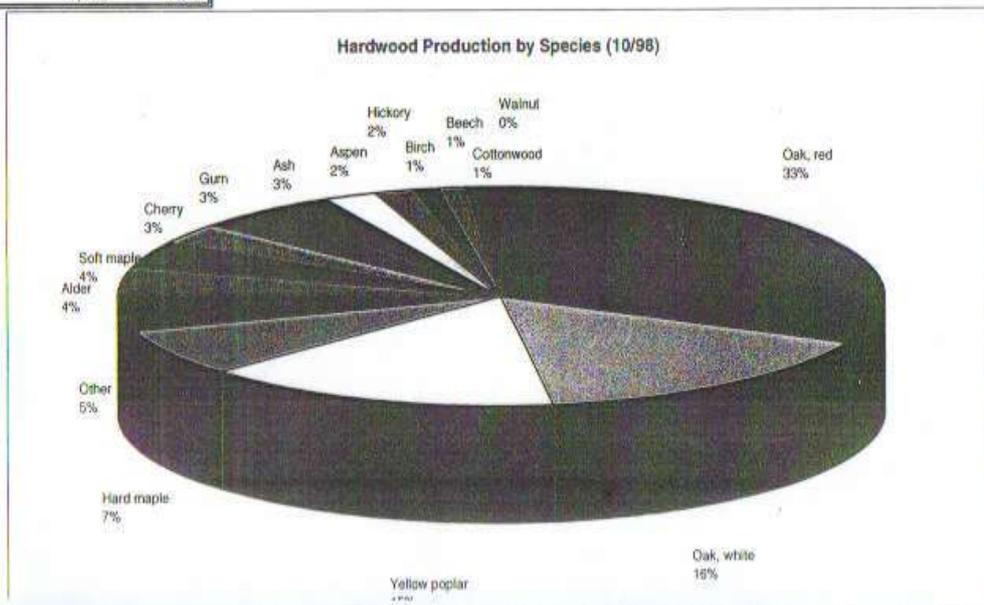
左記の写真はカツラ原木です。産地は足寄産です。カツラの良い産地では有りませんが良い産地にもう資源は殆ど残ってないのです。左記の原木は芯が腐っていてシラタが深い事は解かると思います。品質的には優良材出は有りませんが100本のカツラ原木が有れば80%以上左記のような材質の物ばかりです。

優良材はカツラに限らず上記で述べた四種類の広葉樹はほんの一握りしか優良材はなくなって来ているのです。

国産広葉樹資源の優良材は凄く値打ちの有る材です。

アメリカ広葉樹の生産数量を知って下さい。

Species	MMBF	% of Total
Oak, red	3,613	32%
Oak, white	1,720	15%
Yellow poplar	1,720	15%
Hard maple	770	7%
Other	550	5%
Alder	500	4%
Soft maple	450	4%
Cherry	342	3%
Gum	337	3%
Ash	336	3%
Aspen	235	2%
Hickory	195	2%
Birch	125	1%
Cottonwood	125	1%
Beech	120	1%
Walnut	35	0%
Total	11,173	100%



表はアメリカ広葉樹製材品の樹種別の割合です。オークが凄く多いのは解かっていただけだと思います。アメリカ広葉樹も日本の広葉樹同様品質の低下は進んでいます。板の巾が平均狭くなったりはしています。しかし一番違うのは等級ルールの違いなのです。

日本国内では節の無い事を前提に格付けが行なわれ、例えばナラを例に出せば一番上がFAS（赤身オンリー）、二番目がNO1、（シラタ有り）そしてNO3（シラタの変色有り）となっています。全て節無しでの等級づけなのです。しかしアメリカは一番上がFAS/1F（ファーストアンドセカンド/ワンフェース・木表）ですがファーストアンドセカンドとは木表材面の83.3%以上無欠点で、木裏は66.6%以上無欠点の材なら該当するのです。アメリカ材は節が有って当然と言う考え方から成り立っている商品なのです。

日本に多く輸入されているホワイトオーク、ウォールナット、ブラックチェリー等はアメリカ広葉樹の等級付けが割りと厳格な商品なのです。

他方多く輸入されていないレッドオークは比較的等級付けが甘い商品です。生産量が多い事は、蓄積量も多い事の裏付けなのです。生産量が多いと多少とも無理が利きます。現に日本に輸入されているレッドオークの商品はウォールナットと較べると節は非常に少ないです。

私はアメリカ広葉樹を扱っていますがアメリカ人の回し者では決して有りません。日本の広葉樹の優良材が減ってきている以上これからの建築にはアメリカ広葉樹の有効利用を図らなければいけないと思っているだけです。

**数量の確保が比較的しやすい、レッドオークをもっと上手く利用して頂けると素晴らしい設計が出来ると
思います。生産量が多いという事は良い製材品を有利に買える事の証拠だと思ひます。**

木材需要が少なくなるとマーケットから無くなる木材商品は増えます。

日本の国内の景気はリーマンショック勃発当時と比較して数段悪化しています。そして取りあえず緊急避難的に価格の安い物に消費者の財布が向いています。木材を使った資材から他の石油製品で出来た資材を使う方にどうしても向かざるを得ないですが、こうなると益々国内で取り扱われている木材商品は少なくなります。

例えば南洋材のラワン材は現在、日本国内での流通している量は、完全にゼロでは有りませんが、ゼロと言っても可笑しくない量しか流通していません。ラワン材は合板なら手軽に手に入りますが、板とか内装木取り材なら手に入らなくなってきました。その理由はフリー盤と言われる集成材の台頭でマーケットから葬り去られたのです。しかし建築に携わる方々に資材を提供する我々材木業者が資材の需給動向等の情報を提供していない為に其れなりに必要な木材資材も現地に原木が有るにも拘わらずまるつきり輸入されなくなり無い物ばかりになっているのが今の状況だと思います。又売れ行きの良いアフリカ材(ブビンガ材等)も産地のカメルーンではなく、ある程度数量の集まるヨーロッパからコンテナによって輸入されるようになってきました。木材を輸入していた商社もコンテナ単位なら商いの金額が張らなくなって来ているために撤退し益々輸入されなくなってきたのが現状だと思います。

以上の事で国産材を使ったら良いのだと思われるかも知れませんが、国産材だけでは我々の必要な内装部材を提供は不可能です。『広い巾の必要なカウンターなどはスギ・ヒノキでは無理です。』

チーク原木もユニタイプのフローリングは流通していますが、優良原木は現在の国内には皆無と言える状況です。日本のマーケットで有る一定数量を下回る量しか出回らなくなれば、それは将来的に流通しなくなる商品かも知れない事だと思います。

誇りの持てる日本人にするのが国の仕事ではないですか。



上記の写真は京都府福知山市にある京都府立職業訓練校の3月7日に催された祭の様子です。

この専門校は販売実務科・建築科・家具工芸科・自動車整備科と四つの訓練科が有るのですが、その内の家具工芸科が来年2010年に廃科が決まっているのです。

自民党の大村と言う労働副大臣は今回の未曾有の大不況に対して全国にある職業訓練校を利用して雇用を新しく作りだしますとテレビで大きく発言されていましたが、現実とは全く違うのです。

私は職業訓練とは、自分が日本人として生れた事を誇りに思う事が出来るようにする為の公的な公共サービスに違いないと思います。木は日本人の文化です。文化こそ誇りでは有りませんか。

訓練校の木工科は以前、大阪府に二校、京都府に一校、奈良県に一校、和歌山県に一校有りましたが、事実上残るのは奈良県のみになってしまいました。凄く寂しいし情けないと思います。

木は日本人に癒しを提供します。癒しは幸福を齎します。木はそれだけでは機能しません。作り上げて癒しを齎すのです。

日本人の木の伝統文化の継承を理解していない国若しくは政府は又過ちを繰り返そうとしています。採算だけを重要視する事は国の仕事ではない。もっと深く考えて欲しいと思います。